学 会 創 立 事 情

日本社会関連会計学会誌の創刊にあたって，草創時代を振り返ってみよう．昭和51年4月に行われた会計学会(於専修大学)の折に第1回の会合がもたれた．

当時，東京では小川・黒沢・中原・上領氏らを中心に「プロダクティヴィティ委員会」(日本生産性本部)，大阪では青木・飯田・山上氏らを中心に「付加価値分析委員会」(関西生産性本部)がもたれていた．そこで，関西の青木・飯田・山上氏が世話人となって，合同研究会の設立が提案され，東京の「豆腐料理店」で呱々の声をあげた．当初の名称は「企業生産性研究会」で，会員は上記の7名であったが，その後，鈴木・井上・滝野氏らが加わり，年2回(会計学会・経営学会開催時)の研究会が開かれるようになった．いま，その後の会合を記してみるとつぎのようである．

記

昭和51年10月　(報告者) 飯田・山上・青木氏
(テーマ) 関西生産性本部「付加価値分析指標」
(場　所) 「神仙閣」(神戸・三宮)

52年 5月　(報告者・テーマ)
飯田修三氏「付加価値論争の回顧と展望」
山上達人氏「付加価値会計(中央経済社)」
(場　所) 大阪大学・近辺「鍋料理店」

52年10月　井上薫氏「企業目標と規制企業の行動」
青木脩氏「フランス会計制度論(森山書店)」
ちからまち会館(東海銀行・名古屋)

53年 9月　山上・青木・飯田氏「わが国企業の付加価値分析」
鈴木一成氏「ギルクリスト付加価値会計論」
早稲田大学・同大隈会館

研究会の活動は，その後，彦根の「千成亭」(54.6.)，京都の「北斎」(54.9.)とつづき，この頃からは，会員も増加の一途をたどり，もっぱら，「企業付加価値会計(有斐閣双書)」の共同研究へと進み，名称も「付加価値研究会」・「社会関連会計研究会」と発展していった．なお，昭和55年以降の活動(「現代の財務分析」・「会計情報と情報開示」・「会計情報ディスクロージャー委員会」など)については，次号とする．

(山 上 達 人)